

第1学年1組 美術科 学習構想案

日時 令和4年11月2日 第5校時
 場所 美術室
 指導者 教諭 今崎 晃庸

1 題材構想

題材名	生命力を感じて（美術1 開隆堂 p.22～23）		
題材の目標	(1)表したいものの形や質感をとらえ、塑造の技能を知り、立体に表すことができる。(知識及び技能) (2)表したいものの特徴から発想を広げ、生命力のある表現を考えることができる。(思考力、判断力、表現力等) (3)生き生きとした姿を表現することに関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。(学びに向かう力、人間性)		
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①形が感情にもたらす効果や、立体感や量感、質感や動きなど造形的な特徴をもとに、よさや美しさ、生命感を全体のイメージでとらえることを理解している。 ②材料や用具の使い方を身につけ、意図に応じてつくり方を工夫し制作の順序を考えながら見通しをもって表している。	①動物から感じ取ったよさや美しさ、生命感から主題を生み出し、全体の構成を考えながら表現する構想を練っている。 ②生命力を感じる作品のもつ造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図について考え、見方や感じ方を広げている。	①美術の創造活動の喜びを味わい、動物が持つ形の美しさ、生命感などをもとに構想を練ったり、意図に応じて工夫したりして表す活動に楽しく取り組もうとしている。 ②美術の創造活動の喜びを味わい、動物がもつ形の美しさ、生命感などをもとに見方や感じ方を広げる鑑賞の活動に楽しく取り組もうとしている。
題材終了時の生徒の姿			
動物から感じ取ったよさや美しさ、生命感から主題を生み出し全体の構成を考え、材料や用具の使い方を身につけ見通しをもって表すことができる。			
題材を通した学習課題(題材の中心的な学習課題)		本題材で働かせる見方・考え方	
塑造の技法や効果を理解し、量感や質感、動きなど特徴をとらえ、工夫して生き生きと表す。		塑造による立体表現を通して、量感、質感や動きなど造形的な特徴をとらえること。	
指導計画と評価計画（9時間取扱い 本時 5/9）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等
導入	0.5	参考作品を鑑賞し、彫刻のよさや美しさをあじわい、彫刻表現の特徴を知る。	・【思②】【態②】観察 ○造形的な視点をもとにして、参考作品の工夫点に気づく
展開	1.5	形や量感、質感、動きなどの特徴をとらえ、彫刻の構想を練り、デッサンをする。	・【知①】【思①】作品【態①】観察 ○造形的な特徴をもとに彫刻の構想を練ることができる。
	2	動物の骨格をとらえ、心棒を作る。	・【知①、②】作品【態①】観察 ○骨格をとらえ心棒を作ることができる。
	4.5	量感や質感をとらえ粘土で肉付けをする。 本時は 1/4.5	・【知①、②】【思①】作品【態①】観察 ○量感や質感をとらえ肉付けを工夫し生き生きとした表現ができる。
終末	0.5	お互いの作品を鑑賞し、よさや美しさを味わい感想等を交流する。	・【思②】ワークシート【態②】観察 ○お互いの作品を鑑賞し、よさや美しさを批評しながら味わい文章にまとめ意見を交換している。

2 題材における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）	
中学校学習指導要領美術科「A 表現」（1）ア（ア），（2）ア（ア）（イ） 「B 鑑賞」（1）ア（ア） 「共通事項」ア イ	
教材・題材の価値	
<p>情報機器の発達に伴い、生活の中で視覚や聴覚を用いる機会は増えてきているが触覚を用いる場面は減ってきている。彫刻は「触覚の芸術」とも言い、素材に触れながら表現をしていく。さらに対象を多角的に見つめる力も要求される。本題材では動物を主題とし、粘土で表現をしていく。粘土は可塑性に優れ、修正もしやすく立体を学習するうえで重要な素材であり、就学前教育や小学校の図画工作科でも親しんできている。主題を動物としたのは、骨格や量感など特徴がとらえやすく、なおかつ生徒たちに親しみやすいからである。そこで、より生き生きとした表現を目指し学習意欲を高めるために動物園でスケッチを行い、五感を通して動物の特徴や動きをとらえさせる。本題材では、動物を立体で表現することを通して、立体の重要な要素である面や塊、量感、質感について学習をしていく。これらの表現活動を通して立体表現の基礎を学んでいき、物事を多角的に見ていく力を身につけていくために価値のある題材である。</p>	
本題材における系統	
<pre> graph TD A["1年絵「見て描く楽しみ」 自分の持ち物を鉛筆デッサンし 水彩画で描く"] --> B["1年彫刻「生命力を感じて」 量感や質感をとらえ粘土で動物を 生き生きと表す。"] B --> C["2年彫刻「形を研ぎ澄ませて」 滑石の特性を活かして、抽象彫刻をつくる。"] B --> D["1年工芸「暮らしに生かす」 鍛造で真ちゅうスプーンなどを 製作する"] C --> E["3年工芸「木でつくる遊びの形」 寄木細工で工芸品を製作する。"] </pre>	
生徒の実態（題材の目標につながる学びの実態）	
<p>■生徒の実態</p> <p>生徒は全体的に真面目に授業に臨み、与えられた課題については一生懸命取り組むことができる。1学期の水彩画の作品からは標準的な技能を身につけていると考えられるが、主題の選び方については受動的で画一的になるなど課題が見られた。また、見通しをもって制作を進めることができる生徒は多くはない。表現技術が劣る生徒も若干見られる。本題材を行うにあたってアンケートを行ったところ、絵の表現を得意と感じている生徒は37%で工作が得意と感じている生徒は58%。修学旅行で見学した長崎の平和祈念像以外に彫刻作品を鑑賞した経験はほとんどない。ICTの活用に関しては便利だと感じている生徒は94%、得意だと感じている生徒は68%であった。</p> <p>■考察</p> <p>主題の選び方は教師で方向性を示し、選択肢を与えることでより良い主題を選べるよう指導をしていく。塑造による立体表現は、対象を多角的にとらえ、面や量感、質感などの基礎的要素を学ぶためのよい機会となり、ここで身につけた立体表現の基礎的な力は他分野の表現力向上につながっていくと考えられる。これまで彫刻作品に触れてきた経験はほとんどないため、授業に関連する作品を紹介したり、身近な地域の作品を紹介したりして鑑賞の機会を与えることで興味の幅を広げていきたい。さらに工作分野を得意と感じている生徒も多いため、これを契機にした他の分野に対する苦手意識の解消を目指していきたい。</p> <p>タブレットの使用については小学校の頃より慣れ親しんできていることもあり、授業でも抵抗なく活用することができ、アンケートからも有用性も感じていることが見て取れるため、表現を助ける手段として有効に活用したい。本題材では画像への描きこみ機能を活用し制作の見通しを持たせたり新たな表現への抵抗感をなくしたりすることや、制作の節目で作品の画像を記録して学びの足跡を残すことで自身の変容も可視化して振り返りに生かしていきたい。</p>	

3 指導に当たっての留意点

- 参考作品の鑑賞と同時に立体表現の魅力について説明を行い、制作の見通しを持たせる。
- デッサンは資料をもとにして対象を多角的に捉えることができるよう、あらゆる角度から描くように促す。
- デッサンもとに生き生きとした表現になるよう、心棒でしっかりと骨格をとらえ、動きを出す。
- 肉付けは表面的な表現にならないよう、量感や面のもたらし効果について理解させ、対象に合った質感を表現させていく。
- 主題や表したい動きについてワークシートにまとめ、自身の表現について振り返りを行う。
- 人権教育に係る資質・能力については、お互いに励まし合い、助け合いながら学習することで、よりよい人間関係を築くように配慮する。また、発表の際には、誤りに対しては寛容に、また、級友の良さを認め合う雰囲気作りに努め、生徒それぞれが自信を持って活動できるよう配慮したい。

【②価値的・態度的側面－エ】

4 校内研究との関連

【研究テーマ】主体的・対話的で深い学びの実現による確かな学力の育成を
～ICTの効果的な活用による授業改善を通して～

【研究の仮説】

授業において、効果的にICTを活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の習得やそれらを活用しての課題解決学習を意図的に仕組めば、生徒の思考力・判断力・表現力が高まり、主体的対話的で深い学びにつながるであろう。

- 主題にかかわる資料を、自身で収集し端末に画像などで保存し、必要に応じて資料を選び出すことで表現の幅を広げることができる。
- 撮影した画像に、描き込みを行うことで制作に見通しを持たせることができる。
- 撮影した作品の画像などを、集約して電子黒板に示していくことでお互いの表現を交流したり意見を交換したりすることで表現を深めることができる。
- 制作の過程を画像で保存させていくことで、思考の流れや表現の変容を視覚化することができる

5 板書計画



6 本時の学習

(1) 目標 量やバランスについて理解することができ、見通しをもって肉づけをすることができる。

(2) 展開

過程	時間	学 習 活 動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	1 前時の授業を振り返り、作品の進み具合を確認する。 2 本時のめあてをつかむ	○心棒の画像を示し、前時までの学習を振り返らせ、本時は肉づけを行うことを確認する。
		【本時のめあて】見通しをもって肉づけをしよう。	
展開	35分	3 画像の心棒にタッチペンで肉づけをする。 4 画像の作品のよいところを考え発表する。 ◇特徴をとらえている ◇迫力がある ◇バランスが取れている。など 5 粘土の扱い方についての説明を聞き、肉づけをしていく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【期待される学びの姿】 画像上で肉づけを行うことで、実際の制作で見通しをもって意欲的に肉づけを行おうとする。 </div>	○画像の心棒に肉づけする方法を説明する。 ○肉づけした画像は提出させる。 ○参考となる作品を紹介し、よいところはどこか考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> ○画像の作品のよいところはどこだろうか。 </div> ○画像でよいところを示したり、改善点を画像に記入したり、作品を比較したりしながら肉づけの見通しを持たせる。 ○粘土での肉づけと保存方法について指導する。 ・大まかにとらえ、量の大きいところからつける。 ・片手で心棒を支え、中心に向かってしっかりつける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【具体の評価規準】知① 量感、質感や動きなど造形的な特徴をとらえて肉づけをすることができる。 (作品・観察) </div> 【到達していない生徒への手立て】 ○机間指導を行い作品の進度や、生徒の技量に応じて個別に指導や支援を行ったり、質問を受けたりする。
終末	5分	6 本時を振り返り感想を発表する。 ◇難しかった。 ◇うまくできた。 7 本時のまとめを聞き、次回の見通しを持つ。	○保存する前に作品は画像で提出させ、振り返らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 【まとめ】完成のイメージを持って制作を進めることが大切。 </div>